高退協文芸

詩

飛行船

西村雅人

薄曇りの今朝の空
濃淡のにじみあう世界を
飛行船が流れていく
懸命に回るプロペラ
でも
風には勝てないようだ
ああ　しかたがないね

今日いちにち
何をしようか
どこに行こうか
誰に会おうか
薄曇りの空へ
疑問詞たちが
浮かんでは流れていく

短歌

手作りの赤シソジュース

山本晶子

すいすいとほこり取れゆき心地よし夫直しくれし洗濯槽は
二百回こねて焼きたるハンバーグ夫は平らげもっと食べたしと
手作りの赤シソジュースをいただきぬ美しき色愛でつつ飲み干す
（お隣のSさん）

秋の遠足

叶岡淑子

訪れし文教のまち佐川町　秋いっぱいの退婦教遠足
独学で植物学を極めたる牧野富太郎のふるさと巡る
ふるさとに青山文庫を贈りしは田中光顕九十七年の生涯

コロナ禍よりこわいスガ禍

田上悦子

ニーメラーや滝川事件は知らずとも「俯瞰」が「見ないこと」とは思えず
こわいけど他人事だからと見逃せばスグにワガ身にスガ政治の禍
月読の満ちて欠けるは不実とうジュリエットの恋まだ十三歳

（前号で「満ちて」が「落ちて」となっていました。「満ち欠け」をする、すなわち日々姿を変える不実な月に「不変」の愛は誓えぬというセリフをまだ十三歳の少女に言わせたシェイクスピアに驚いた歌です。ある歌会で題詠が「月」であったときに詠んだ歌です。
（お詫びと訂正）前号No226の歌稿作成の際、不覚にも「満」の字を誤植してしまいました。深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。誤＝落ちて、正＝満ちて。（担当・叶岡）

川柳

帆傘集

小澤　幸泉

天国へ続く線路の長い旅
給付金10万円は要りません
エアコンも妻もやっぱり歳ですね
止むこともなく降り注ぐ黒い雨
野菜畑妻のやさしさ育てられ
悔しいが八十代を生きてやる
どうしよう私たくさん生き過ぎた

俳句

花蘇鉄の四季

小澤　幸泉

八月の空青くして哀し過ぎ
夏の雲御国の道はまだ見えぬ
苦しみと哀しみ消えぬ原爆忌
晩秋の土佐の山脈君とおい
彼岸花赤白黄色咲き競う